

Q 9 中学校で保健室等登校をしています。高校への進学を本人も希望しています。どのようなことに配慮して進路指導をすればいいでしょうか。

- 現 状
- 1 保健室等登校をしている生徒は、教室で授業を受けることが少ないため、学力に不安があることが多い。そのため、高校への進学希望があっても具体的に自分の希望を話せないことも多い。
 - 2 保健室等登校生徒は、対人的な不安が強いため、多くの生徒が集まる高校での生活にも不安を抱くことが多い。

考えられる対応例

- 1 学年段階に応じて、進路指導の指導計画を確認しながら対応することを基本とする。
- 2 進路についての計画的な学習をしたことがない場合が多いので、限られた時間内で、効果的な進路指導を行う必要がある。
- 3 生徒の考えを尊重しながら将来の目標に近づくことができるよう、高校の選択は十分に検討することが大切である。
- 4 具体的な希望校が数校決まったら、パンフレットだけではなく実際に高校に出掛け、学校の周辺を散策しながら高校生活への期待を膨らませたり、実際の通学に条件の良い学校を総合的に選択できるようにすることが大切である。
- 5 受検までの具体的な書類作成や学習方法についても適切な助言を行い、効果的な学習や受検準備ができるよう、励ますことが大切である。
- 6 受検を目前に控えると、他の生徒よりも更に緊張感が高まることが予想されるので、教育相談を行うことで、心理的な安定感をもたせることが大切である。
- 7 公立高校の受検に際しては、自己申告書を提出することができることを生徒及び保護者に説明し、入試事務を円滑に進めることが大切である。
- 8 高校への入学が決定した段階で高校側との十分な情報連携を図り、中学校での対応の状況を細かく情報提供し、高校でも欠席がちになったり、保健室や相談室への登校をしたりすることがあり得ることを高校側へ伝えることが大切である。

